

カトリック社会教説の意義—— 公共哲学的観点から

2015年11月22日

山脇直司

はじめに

- 私は、1970年代に真生会館で、しばしばシュガレ神父様と協働したし、小宇佐神父とも協働したことがある。ミュンヘン大学に留学し、帰国してからはあまり会っていないので、今日の私の話は、お二人にとって初めての内容かもしれないが、その当時の考え方と現在の私はあまり大きな違いはない。ただし、より柔軟(大人)になったことは確かであろう。

自己紹介

- その後私は、1996年度より東京大学大学院と学部（駒場キャンパス）で公共哲学の科目を担当し、その後、京都フォーラム主催のシンポジウムに参加し、東大出版会の公共哲学シリーズ全20巻の編集にもタッチしたが、私自身の考えは、2004年5月刊行の『公共哲学とは何か』（ちくま新書）で公にした。

2004年5月



今日の視点

- その後、『社会とどうかかわるか』(岩波ジュニア新書)『グローバル公共哲学』(東京大学出版会)『公共哲学からの応答——3.11の衝撃の後で』(筑摩選書)などで考えを発展させており、今日はそのような文脈の中で、「カトリック社会教説」の意義を考えてみたい。

2008年1月



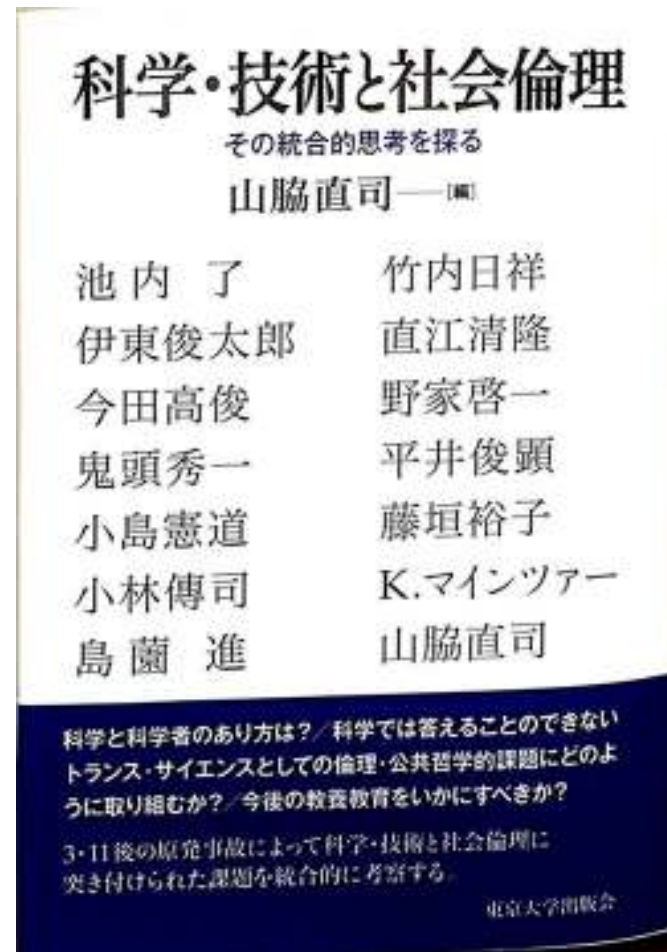
2008年11月



2011年12月



最近の成果(2015年1月)



1 公共哲学の定義とその伝統

- 「市民的な連帯や共感、批判的な相互の討論にもとづいて公共性の蘇生をめざし、学際的な観点に立って、人々に社会的な活動の参加や貢献を呼びかけようとする実践的哲学（『広辞苑』第6版）」

1 公共哲学の定義とその伝統

- 「より良き、公正な社会を追求しつつ、現下で起こっている公共的諸問題を市民と共に論考する実践的学問」(私自身の定義)。したがって公共哲学は特定のイデオロギーではなく、様々な思想や立場がありうる。

1 公共哲学の定義とその伝統

- この学問の伝統は、西洋ではアリストテレスの実践学（倫理学、政治学、レトリック）以来の伝統を持っている。東洋では大乘仏教や孟子以来の伝統を持つであろう。そして20世紀以降では、英語圏では、ウォルター・リップマン（超一流ジャーナリスト）、ロバート・ベラー（日本の思想に造詣が深い）、マイケル・サンデル（今や有名人）らが公共哲学を唱え、

1 公共哲学の定義とその伝統

- ドイツ語圏ではアーレントやハーバーマスの公共圏の思想が「現代の公共哲学」の名に値し、日本では、1930年代以降の三木清、和辻哲郎、田辺元らの思想、および戦後の南原繁や丸山真男の思想がその名に値するであろう。フランス語圏はpublicの意味が公衆ではなく、政府や国家に吸収されがちだが、ジャック・マリタンはカトリックの公共哲学者であった。

マイケル・サンデル教授

- これからの正義を語ろう。



ジャック・マリタン(1982-1973)



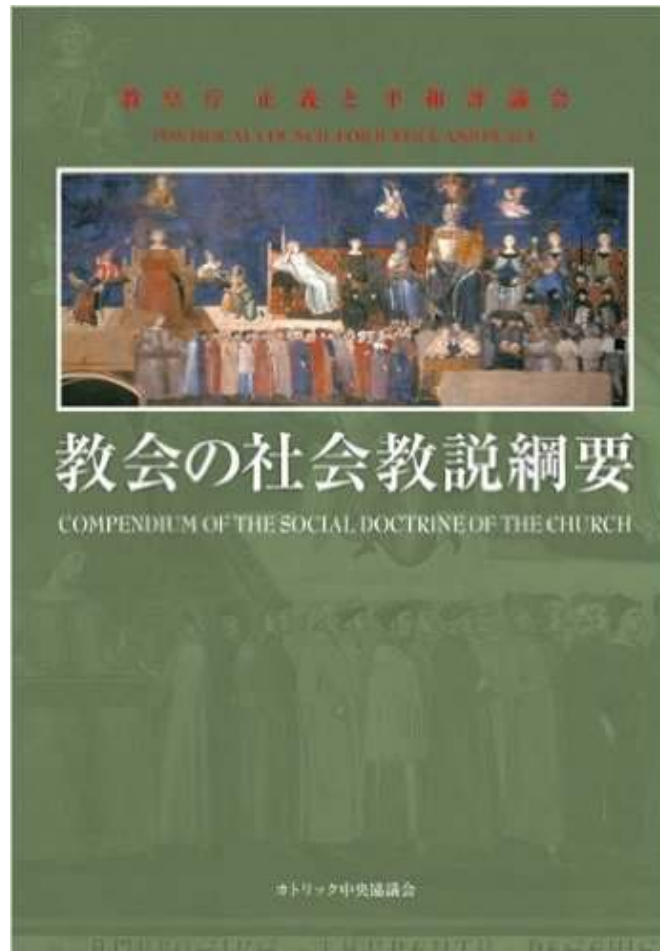
1 公共哲学の定義とその伝統

- 公共哲学の意義は、政治、経済、法律、教育、メディア、科学技術、環境、宗教等々、社会の様々な領域に見出される公共的な諸問題をめぐり、多様な「現場」と「理念(ヴィジョン)」と「政策」を結びつける役割を担うことにある。現下の文明社会で起こっている公共的諸問題は、戦争、難民、核兵器、原発、テロリズム、経済格差等々、実に深刻であり、それらの問題を「より善き公正な社会を追究しつつ、一般市民(The public)と共に論考することが、公共哲学の大きな任務である。

2 公共哲学としての カトリック社会教説



2 公共哲学としての カトリック社会教説



2 公共哲学としての カトリック社会教説

- 宗教的信仰は単に私的な次元を有しているわけではない。アメリカの宗教社会学者ロバート・ベラーが言うように、信仰が、権力政治や市場経済の力に押しつぶされずに暮らせるような共同体という形を必要とする以上、信仰は、公共的な世界の中の営為として考えられなければならない。

ロバート・ベラー



2 公共哲学としての カトリック社会教説

- ひとりひとりの信仰が私事に終わらず、宗派を超えた公共的な世界と結びつくことを、公共哲学は推奨するが、この点はカトリック教会も共有しており、カトリック社会教説とは、信仰から生まれる原理を基に、社会、文化、政治、経済に関する公共的諸問題を信仰者に喚起し指南する教説である。

2 公共哲学としての カトリック社会教説

- 1891年のレーラム・ノヴァリム(労働者の境遇)から、1965年の現代世界憲章を経て、2015年のラウダート・シに至るまでたびたび公にされてきており、その内容は、まさに「カトリックの公共哲学」と言ってよい。
- カトリックの公共的な価値は、隣人愛に基づく共通善、連帯、補完性原理、人権、平和、正義、環境保護など数多い。

カトリックの人間像

- その前提となる人間像は、一方で「人間は孤立した存在ではなく、社会的存在であり、他者との関係なしには、生きることも才能を発揮することもできない」(翻訳99頁)のものであり、他方で「唯一でかけがえのない存在、自己理解、自己所有、そして自己決定能力をもつ私として存在する」(翻訳114頁)。かけがえのない私と、社会的存在者としての私(公共的な私)を両立させることが、信仰者の課題。

3 そのために日本語で考える 公共哲学の提唱、その一

お勧めできないライフスタイル

- その① 滅私滅公(めっしめっこう)
——無気力な生き方、ニヒリズム
- その② 滅公奉私(めっこうほうし)
——私という個人のために、公共の利益や福祉を無視するライフスタイル
- その③ 滅私奉公(めっしほうこう)
——私という個人を犠牲にして、お国＝公のために尽くすライフスタイル

滅私奉公



滅公奉私



お勧めしたいライフスタイル

- その① 活私開公(かっしかいこう)
——私という個人一人一人を活かしながら、
人々の公共活動や公共の福祉を開花させるラ
イフスタイル
- その② 無私開公(むしかいこう)ないし滅私
開公(めっしかいこう)
——私という個人の私利私欲をなくして、
人々の公共活動や公共の福祉を開花させるラ
イフスタイル。

お勧めしたいライフスタイル

- この場合、どこまでも「活私開公」を人々の理想的なライフスタイルとし、その実現のために、政治家、組織のリーダー、宗教者、公務員、医療関係者、教育者などによる「無私開公」「滅私開公」が要求されると考えるべきだろう。
- この組み合わせの相乗効果によって、日本国憲法13条に記されている「諸個人の尊重」と「公共の福祉」の生き活きとした両立が可能になる。

活私開公・無私開公の 具体的活動



小活

・なお、人権は自分だけではなく「他者の尊重」を含意していることを忘れてはならない。

・このように考えをベースに、カトリックの社会観の在り方を深めることが期待される。

4 そのために日本語で考える 公共哲学の提唱、その二

- 日本発のWA(和、輪)という価値理念
- ユネスコ憲章の序言「戦争は人の心の中で生まれるものであるから人は心の中に平和の砦を築かなければならない」に対応して、WAは何よりもWAR(戦争)との対比で考えられた平和を意味する。アルファベットで表わされたWAは、何よりもWAR(戦争)との対比で考えられた「平和の和」と「連帯の輪」を意味する。

ユネスコ



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



WA(和、輪)という価値理念

- 「和して同ぜず = Harmonizing in Diversity」(論語)という格言のみならず、
- 「同」は、同質的なものの集合体にすぎないのに対し、「和」は、異なるものを取り入れながらも調和し、ダイナミックに発達していくものを意味する(春秋左氏伝、国語)。

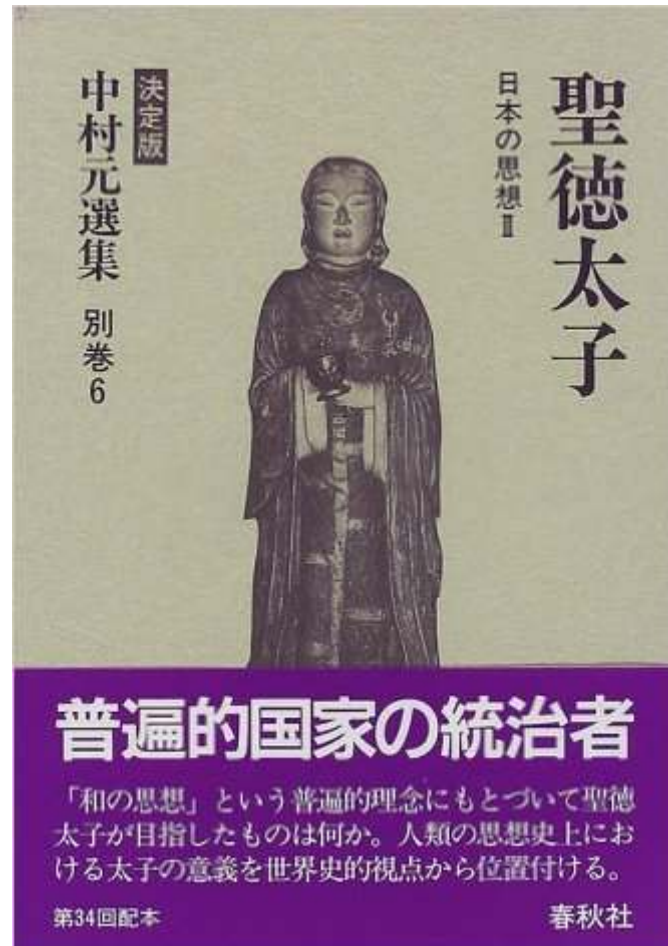
和して同ぜず



WA(和、輪)という価値理念

- 仏教哲学者の中村元によれば、聖徳太子の17条憲法における「和」は、仏教の影響を深く受けており、さらにそれは慈悲の思想とも関連している。WAは、「和らぎ」「和らぐ」や「和やかな」「和む」を含蓄し、「連帯の輪」を指しうる。

中村元 聖徳太子



WA(和、輪)という価値理念

- ただし他方、まあまあ主義に堕したり、個人やマイノリティの抑圧の正当化に加担しないように、WAはSocial Justice(社会的公正)やRestorative Justice(関係修復的正義)の思想によって、補完・強化されなければならない。「活私開公」とWAの補完。
- そうして初めて、「WAの哲学」は平和実現のための「柔和で確固たる連帯」というカトリックのみならず、宗派や国境を超えた理念となり得る。

和やかな平和の輪



宗教的公共感情

- しかし、平和、福祉、公正、徳性といった諸価値は、単に理性的に認識されるばかりでなく、「共感（シンパシー）」や「共苦（コンパッション）」というレベルで感じ取られなければ、実践的な力をもち得ないであろう。

宗教的公共感情

- 現代のスピリチュアリティの問題として「宗教的公共感情の育成」が、新たな課題として浮上する。人々、特に若者達において、共感や共苦などの公共感情が育成されることによってこそ、平和、福祉、公正などの価値の血肉化と、それに基づく実践的エネルギーが担保されうるであろう。

宗教的公共感情

- 宗教的公共感情は、何よりもまず、人間を皮相なりアリティの桎梏から解放し、死生観を機軸として人生の意義を考える高次のリアリティへと促すものでなければならない。

結語

- マス・メディアが皮相な娯楽番組によって人々の意識を操作する中、若者が人生に意義を見出せず、ナショナリズムが心の癒しとして流行するような忌まわしい現状を打破するためにも、この課題は重要である。「ニヒリズムの克服」という人類史上長年にわたって語られてきたテーマは、今日ますます深刻性を帯びている。

- 皆様、ご清聴ありがとうございました。